

天を突くスカイツリー

東京のスカイツリーがとうとう600メートルを超えました。電波塔としては世界一の高さとのことですよ。

完成時には634メートルになるそうですから、333メートルの東京タワーの約倍の高さになるわけで、ちょっと実感がわきませんが、とてつもなく高いということは分かります。

人間が作った構造物で一番高いのはドバイに建設されたブルジュ・ドバイで、高さは819メートルといわれています。しかも、ドバイでは、ナキールという会社が1000メートルを超えるビルを建設する計画があるとのことですので、人間は、一体どこまで高い建物を建てれば気が済むのだろうと思ってしまいます。

人間が作った巨大構造物としては、万里の長城やピラミッドのように何千年の時を超えて、今にその姿を見せているものもありますが、スカイツリーやブルジュ・ドバイは果たしてどうでしょうか？

有名なエッフェル塔は、僅かに120年余りしか経っておりません。これから先、一体何年立ち続けることができるのでしょうか？

人間は、バベルの塔の時代から、何者かに挑戦するかのよう天を突く建物を建て続けてきました。

バベルの塔は、今では、空想的で実現不可能な計画の代名詞として使われることが多いのですが、勿論、今建設されているスカイツリーは最新の技術によって計算し尽くされたものですから、同列に扱っては失礼というものでしょう。

このバベルの塔、一説によれば200メートル足らずだったのではないかとされておりませんが、崩壊した原因は、神の手によって人々が話す言語がバラバラになり、これによって混乱したためといわれています。

意志が通じないことによる混乱と恐怖は、東日本大震災の被災地の状況からも

ひしひしと伝わってきます。

一方、天まで伸びようとしているスカイツリーを見ていると、人間の英知を結集したときの力の大きさを実感することが出来ます。

スカイツリーは、順調に工事が進んでおりますのでバベルの塔のように途中で崩れることはないでしょう。

しかし、この世の中は何が起こるか分かりません。今回の地震でも「想定外の規模」ということがいわれますが、所詮は人間の想像力の中でしか考えていないのですから、完璧な想定などというものがあるとはどうも思えません。

人間の手になるものは、いずれ崩壊していく運命にあります。人知の及ばざる力に対して、我々は謙虚であるべきだと思っています。

その意味では、スカイツリーが無事に完成したあかつきには、傲慢に力を誇示することなく、謙虚に喜ぶべきでしょう。 （塾頭 吉田 洋一）